

子育て施策と高齢者の生きがいの充実に向けて

文教厚生委員会

文教厚生委員会では、愛知県大府市、岐阜県関市を視察しました。ここでは、その視察概要の一部を報告します。

実施日 10月28日(月)～29日(火)
 視察先
 愛知県大府市 ▶ おおぶ子ども・子育て八策事業について
 岐阜県関市 ▶ 生涯現役プロジェクト事業について

参加者 三浦 和也 船川 秀子
 千葉 良秋 丸橋 ユキ
 大沢えみ子 内藤 光雄
 ※金子広和議員は体調不良のため欠席



大府市にて説明を受けるようす

●愛知県大府市
おおぶ子ども・子育て八策事業について
 大府市では、平成28年度大府市子ども・子育て応援基金を設立し、平成29年度に「おおぶ子ども・子育て八策」を開始しました。産後ケアから乳児、幼児、小学生、中学生に至るまでの政策を推進し、令和5年度には「おおぶ子ども輝く未来応援八策」に発展させました。

- ①結婚・妊娠・出産
- ②子育て(未就園)
- ③幼児教育・保育
- ④小中学校(放課後)
- ⑤高校・大学・若者
- ⑥生活・相談支援
- ⑦地域づくり
- ⑧遊び・教養

の8つを元に政策を推進しています。

多胎児支援、こどもどもみんな応援サポーター、子ども会育成事業の直営化、中学3年生・高校3年生の受験応援など、全国的にも新しい事業に取り組んでいるとのこと。

●岐阜県関市
生涯現役プロジェクト事業について
 関市は、生涯現役プロジェクト事業「アクティブGメン75」を開始し、高齢者を支えるまちではなく、高齢者が支えるまちづくりに取り組んでいるとのこと。

「アクティブに動けるGメン75」(元気)なメンバー「健康寿命75歳以上を目指すチーム」を目指し、「アクティブGメン75」を結成しました。農業Gメン(畑作業、食育活動の支援(収穫体験)など)、木育Gメン

(小学校の図工、中学校の美術の授業サポートなど)、保育Gメン(公立保育園の森林内での活動の見守りなど)、ICTGメン(小中学校でプログラミング授業のサポートなど)のチームがあり、それぞれセミナーを受講し、必要なスキルを身に付けてから活動しているそうです。また、高齢福祉課に生涯現役支援員を2名配置し、支援員が地域の課題解決と高齢者の生きがいをヒアリング、コーディネートしているとのこと。

Gメン募集については、広報や生涯学習課の教室などに outgoing 説明をしたり、Gメンたちが口コミで誘ったりしているそうです。

狭山市も高齢化が進んでいるため、高齢者の生きがいをいづくりのさらなる充実を図っていくための政策の参考になりました。



シティプロモーションとコミュニティ交通

総務経済委員会

総務経済委員会では、奈良県生駒市、兵庫県西宮市を視察しました。ここでは、その視察概要の一部を報告します。

実施日 10月30日(水)～31日(木)
 視察先
 奈良県生駒市 ▶ シティプロモーションの取り組みについて
 兵庫県西宮市 ▶ コミュニティ交通について

参加者 広山 清志 豊泉 正人
 田中 寿夫 橋本 亜矢
 関根 弘樹 菅野 淳
 笹本 英輔 太田 博希



生駒市にて説明を受けるようす

●奈良県生駒市
シティプロモーションの取り組みについて
 ①シティプロモーションの開始と転換
 当初の主な目的は転入促進を狙った市外向けPRであった。そんな中、「生駒の自然や利便性、市の取り組みがまちの魅力」これは生駒だけの魅力ではないのでは一言で転機を迎えることとなり。あらたに、「人と人のつながり」といった関係性の構築に焦点を当てて、主体的に地域に関わろうとする意欲の高い「まちのファン」を増やすことに転換を図ったそうです。

②シティプロモーション概要
 市民PRチームの取り組みと効果
 平成27年度からは「いまこまち宣伝部」という名前で無償のボランティアの市民PRチームを作り、人、店、暮らしなど多様な切り口でまちの魅力取材し記事にまとめて市の公式サイトへ

●兵庫県西宮市
コミュニティ交通について
 西宮市では、既存のバス路線で対応できない公共交通不便地域においては、生活移動手段の確保を目的として地域住民が主体的に取り組むコミュニティ交通の導入を支援することで、活力ある地域づくり、持続可能な地域公共交通の確保を図っております。その導入手順は①活動主体の形成、②地域での合意形成③試験運行④地域にとって望ましい事業計画の決定⑤導入⑥運行結果の検証と見直しとなります。あわせて、市の支

援は、交通アドバイザーの派遣や、試験運行等に対する補助、本格運行に対する助成と決められています。もしも本格運用の助成金以上の赤字が続いた場合には、その地域ではコミュニティ交通をあきらめざるを得なくなるため、地域のみならず利用促進を図り、更なる利便性を高める工夫を検討することです。

質疑の中では「ぐるっと生瀬」は本格稼働まで5年ほどかかっていますが、苦労した点は、との質問に、地域の皆様にどれだけ取り組んでいただけるかを仕向ける事が大切であり、ルートに関してはニーズをしっかりと汲み取る事が重要との回答や、収支率の質問では、直近では収支率80%から90%まであがっていて効率の良い運用ができており、新しく運用を始めた地区でも40%を上回っている、との回答をいただき、収支率の高さに驚きを隠せませんでした。

※委員会行政視察の詳しい内容は狭山市議会公式ホームページへ

